セーフコミュニティ・ 審査員講評会

●デール・ ハンソン先生（白石氏：通訳）
「まず最初に、この度、私および王先生を箕輪町に招へいして下さり、審査の機会を与えて下さいましたことを『非常に有難うございます』と感謝の気持ちを述べたいと思います。
素晴らしい取り組みの数々を見せていただいたと思っております。」

「私がこちらに来た時から様々な方とお話しする機会があったんですけれど、結構皆さん『みのわは小さい町ですよ』って言うんですね。『小さい町で社会資源も限られてます』とか、『東京都ほど大きくない』とか、『そういう町だから財源が限られています』みたいな話しがありました。」

「ですが、決して小さいということはですね、マイナスではないというふうに思っておりますので、それが残念だ、というふうに思わないでいただきたいなぁ、「あぁ、すみませんね」というふうに受け取らないでほしいなぁと思っています、小さいということは強みだというふうに私は思っております。」

「実際にですね、東京とか大阪とか、そういう大都会に比べれば、勿論、箕輪町の財源は限られているかもしれません。社会的にも比べると小さいかもしれませんが、逆にそういう大きな町にはない素晴らしいもの、素晴らしい資源を箕輪町は持っていると思いますよ。それは何かというと人の力だと思ってます。それを箕輪町の現地審査でしっかりとお見せ下さったと、私は理解しております。」

「皆様方のですね、地域の力、地域力っていいましょうか、その力っていうのは非常に素晴らしいなぁっていうふうに思いましたし、自分たちで自分たちの町の課題を、きっかりと把握し、それを解決してゆく、その力を箕輪町はしっかり持っているというふうに私は、この２日間を通して感じることができました。」

「私はですね、箕輪から帰って、箕輪の現地視察が終わってオーストラリアに帰った時にですね、息子と一緒にミュージカルを週末、見る予定でいるんですね。それは「マチルダ」というミュージカルです。」

「これは、子どもの話しなんですね、例えばおおまかに、どういう話しかというと、大人はいかにおバカさんで、子どもはいかにスマート、かしこいか、というようなことをテーマにしたお話しです。」

「そのマチルダっていう女の子はですね、非常に本を読むのが好きで、かしこい子なんですが、彼女を取り巻く大人が、あんまりしっかりしていないっていうか、ダメな部分が多い方達が多いんですね。」

「マチルダちゃんは非常に小さいんですが、でも、彼女は決心するんですね、自分の人生において、自分の人生なんだから、自分自信で自分の歩む道を決めてゆくんだ、というふうに決断するんです

ね。」

「私はマチルダのミュージカルを見るんですが、箕輪町の方には、その歌をプレゼントしたいと思います。日本の皆さんカラオケが好きだと聞いておりますので、私のこの歌をですね、是非、受け止めていただきたいと思います。」

「♪あなたはすごい小さいんですが、できることは沢山あるんですよ。小さいということで、あなたを止めることは出来ないんですよ。もしあなたが小さいってことを理由に、諦めたら何も変わらないんですよ。あなたは、いつも私は大丈夫っていうふうに思わないでいてね、それは違うってことは、違うって言わなければいけないって言う。どういうことかというと、彼女はこの歌を歌いながら、（映画は）私は小さいってことを、私の人生なんだから、私自身がちゃんと自分の人生を作っていかなければならないといけない、それは周りの自分をとりまく環境っていうのは、私が自分で作っていかなければいけない。」

「箕輪町は小さいかもしれませんけど、箕輪町が良くなってゆくことをやってゆくためには、箕輪町みなさん自身だけが変えてゆくことができる。みなさんは素晴らしい、皆様方の取り組みはとっても良かった、素晴らしいものでした。」

「そして、皆様方の取り組みは小さい町ならではで、ほかの世界にとっても、とても良いモデルになると、お手本になると思います。」

「王書梅先生も、私も両方、何も疑う余地はございません。箕輪町のセーフコミュニティの取り組みは、再認証に値すると強く思いますので、本部事務所の方に強くお勧めしたいと思います。おめでとうございます。」

「そのような素晴らしい取り組みなんですけれども、箕輪町の取り組みがさらに良いものになるように、さらに次のステップに進んでいただけるように、いくつか私どもの方からコメントさせていただきたいと思います。」

「そしてですね、それの前に、まず皆様方の取り組みのどこが良かったかというとについても、コメントさせていただきたいな、と思います。時にですね、当事者の人たちがやってるどこの部分が、ほかと比べていいのか、どこの部分が良くなっているのかというのは、当事者自身よりわからない部分があると思いますので、私どもの方からコメントさせていただきます。」

「そのあたりをですね、申し上げます。無事、箕輪町の取り組みがうまくいくように、いくつかのご提案させていただきたいと思います。まずは王先生の方から、コメントをお願いしたいと思います。」

●王書梅先生（白石氏：通訳）
「まず最初にですね、箕輪町の素晴らしい点として、コミニュティ、その地域のですね、箕輪町の地

域の実践力というものがですね、取り組み自体が非常に素晴らしいと思います。」

「例えばこの取り組み方の進み方というのは素晴らしいなぁと思いました、ガバナンスの側面から見ても、町長もセーフコミュニティの取り組みをコミット（協定）していただいており、リーダーシップを発揮していただいております。（直訳すれば統治ということになりますが、）どのようにセーフコミュニティの取り組みを回しているか、ということですかね、簡単に言えば。その中で特に、行政としては町長のリーダーシップの下に、体制を整えてマネージメントして下さっている、そこも素晴らしいと思います。」

「そして、実際に箕輪町に行政の立場としてですね、ひとりひとりがコミニュティを正しく理解していただいていることを非常に嬉しく思います。その理解の下でどういうふうに地域レベルでですね、セーフコミュニティを進めてゆくべきなのかということを理解したうえで、どういうふうに展開してゆけばということをですね、箕輪町の状況に合わせて展開されているというふうに理解しました。」

「この二日間、私どもは充実したご報告をいただきました。そしてふたつの活動を視察させていただきました。その前に、ちゃんと申請書を読ませていただきました。それを総じて見ると箕輪町のセーフコミュニティを通して、地域力を高めているなと思いましたし、社会資源、それは地域の繋がりとか、そういうのも入るんですけれども、例えば人との繋がりがあることによって、より物事が取り組みが効果的に進む力というものも入るんですね、そういうもの、あるいは市民参加だとか、そういう参画度、住民の参画度だとか、そういうものがしっかりと前に進んでいるなぁ、というふうに思いました。本当に町づくりという視点で取り組まれ、セーフコミニュティを通してですね、町づくりが進んでいるなぁ、と思いました。」

「そういうようなですね、ソーシャルキャピタント（社会資源）、セーフコミュニティの活動を運営してゆく仕組みがしっかりと構築されていたり、そういう地域の地域力を活用したり、住民参加を推進したり、そういうような取り組みをセーフコミュニティを通して、そのセーフコミュニティ自身が成果を生み出しているんじゃないかと思いました。」

「セーフコミュニティのプログラムを通してですね、非常に広角的に多層的に多面的に町づくりを進めておられるということを、私どもは確認させていただきました。指標のどこでいく（ある）かというと、３に当たるのかなぁ、というように思っています。実際、色んな取り組みをご紹介いただきました。交通安全、子どもの安全、高齢者の安全、暮らしの安全、自殺予防、そして、現地の活動を視察させていただいて、KYT の取り組みだとか、富田地区の取り組み、そういうのを見たときにですね、本当にその取り組みというのが意義あるものだと、なぜそれが必要なのか、それによって町がどう良くなってゆくのか、そこが非常によく見えました。実際にそれが地に足の着いた取り組みであるからこそ、この取り組みが成果を生み、まさに存在意義があり、成果を生み出すのだなぁと思いました。実際、いくつかの取り組みの中では、すでにもう成果が見え始めている。それが何よりもこの活動の存在意義、セーフコミュニティに取り組んでいる意義というものを示して下さっているなぁ、というふうに思いました。」

●デール・ハンソン先生（白石氏：通訳）
「皆様、私のスーツ好きですか？」「私のスーツですね、実は私がシャンハイに行ったときにオーダーメイドで作ったものなんですけれども、このスーツなんですけれども、もしこの私のスーツが複数枚（の生地が）重なり合っていなければ、すぐにこの布って破けてしまう、裂けてしまうと思うんですね。」
「ですので、何かひとつだけでなく、色んな要素が集まって、はじめて取り組みっていうのは頑丈になり、より強度を増すと思うんですね。」
「特に三つの糸が撚り合わさった糸だったり、それを紡ぐことによって、より強度を増すと思うんですね。例えば、私がよく言っているのは、その取り組みは調整されているか？　色んな方によって調整されているか？　ということと、非常に包括的であり、継続的であるか？　ということと、うまくネットワーク化が進んでいるか？　ということと、人と上手く繋がっているか？　他の組織とも繋がっているか？　この３つの側面があることによって、１本の糸よりも、より複数の糸が縒ってある糸の方が、強いのと一緒です。ですから、それはプログラムの管理と一緒で、１本の糸よりも３つの糸が撚り合わさった方が、強度が増すというのは、この取り組み、プログラムについても言えることだと思います。」
「私のスーツはウールなんですけれども、羊毛ですので、３本の糸が撚り合わさって作られた生地だから強い。たぶん、それでもまだまだ破こうと思えば、破ることができると思うんですね。」
「地域のコミニュティで実際に実践しているものというのは、非常に大切です。それは楽しいものであるんですが、例えて言えばコカ・コーラのようなものであると、私は思っています。」
「飲んで美味しいし、（形が）少しかっこいいですね。」
「ですが、実際、よく考えてみるとですね、コカ・コーラは実は水と香り付けと砂糖ですね、これね。」「栄養価ゼロですね。」
「それに、何を加えてゆくかということが大切、意味付けということが非常に大切なことですね。それは同様に私たちの取り組みと一緒です。私たちの健康という側面で、どういうふうにこの取り組みを意味付けしてゆくか、というところが、とても大切になってくると思います。例えば、皆様方でいえば、色んな調査をしたりして、どのようになっているかということを分析しました。。そして、それを元に、実際の取り組みをして、取り組みをした後に、これから何をしていかなくてはいけないか？　というところまで評価が出ています。そういう意味では、この評価ですね。私が今まで訪問したことがある自治体、コミュニティの中でも、１、２位を争うほどの、１、２位と数えられるほどの素晴らしい取り組みをされたというふうに思っています。」
「皆様方がデータを集めてきてですね、それから何が問題か分かっていることに集中して、そして、それのどれを重点課題にしてゆくか？　ということ、そういうようなことをですね、その地域のデータを使いながらやってゆく、皆様がされていたプロセスそのものが非常に素晴らしい。公衆衛生の取り組み、公衆衛生の実践だというふうに、思っていると、お伝えしたいと思います。」

「どういうことかといいますと、箕輪町は様々な動向調査をされたり、色々調査をされていますね。現実の実情を把握するために、そしてそれに基づいて体系的に取り組みを展開されています。そしてそれに基づいて、それに対して評価されている。これがまさに、今、私が申し上げた公衆衛生の素晴らしい実践的な取り組み、というふうに私たちはとらえております。」
「で、先ほど３つのポイントをお伝えしたかと思うんですけれど、今、申し上げた４つ（目）につい

ては指標の３〜５に当たります。まさに３つのポイントをお伝えしましたね。今お伝えした、その４つ（目）の取り組みを掛け合わせるとですね、まさにはたを織っているようなも、布を織っているようなものですよね。その横糸と縦糸というふうに思っていただければ、それが合わさったときに、その糸の強度も強くなりますし、布として美しいですし、実用的になりますし、実践的になります。このように、皆様方の取り組みというのは、まさに横糸と縦糸だというふうに思っていただければいいと思います。」

「私が言いたいのは、セーフコミュニティの取り組みというのは、コミュニティを良くしてゆくための、３つの横糸と、今、私が申し上げた公衆衛生、市民の方たちが、いかに健康にケガをせずに、幸せでいるかというような公衆衛生の取り組みを縦糸にして、まさに縦糸と横糸が織り合わさった、状態だったことをご報告したいと思います。」

「まさに、箕輪町はそれを実践されたな、というふうに思います。縦糸と横糸がしっかり織り合わさったことで、美しい布、強い布、そして実践的な、ただ単に飾り物というだけではなくて、本当に使える美しい織物に仕上がっているというふうに（思います。）織物に例えて、箕輪町の取り組みの評価をお話しさせていただきます。」

「必ずしも、もしかしたらコミニュティによってはですね、そういう地域の国民的ディベロップメント、町づくりの部分の方が弱くて、公衆衛生の方が強ければ、それはそれで、補完はできるけれども強度はちょっと弱くなって、まぁ逆になったりすることあもると思うんですが、その両方が合わさることによって、より強度のある美しい織物に仕上がっているというふうに理解していただければ、イメージしていただければ、と思います。」

「これで、以上が私からの全体的な評価でございます。」「ですので、私のマイクはですね一度は王先生にお渡ししたいと思います。さらに、今、この美しい織物に仕上がってる箕輪町のセーフコミニュティの取り組みをですね、さらに美しいものにしてゆくために、私どもの方からコメントさせていただければと思います。」

●王書梅先生（白石氏：通訳）
「まず最初にですね、既に言及されていることでしたけれども、私がさらに今後期待するのは、いかに女性を活用してゆくか、いかに女性がこの取り組みに関わっていただけるか、ということだと思っております。」
「実際、色んな２日間の報告の中でも、度々出てきたことですので、ここでまとめてお話しさせていただきます。例えば、女性ですね、当事者としては勿論です、高齢者安全のプレゼンの転倒予防のお話しの中で、女性の話しをさせていただきました。当事者で高齢の女性の方が骨粗鬆症の人が多いとか、平均寿命が長いために、それなりのリスクを持っているということを、お話しさせていただきました。」
「当事者だけではなくて、例えば、その方は子どもがおられたり、親御さんがおられたりするとなると、その当事者プラスですね、この子どもたちはケガをしないように、健康であるように、そして、親御さんの転倒予防をするという、そういう支える側ですね。予防する側としての位置づけもあると

思います。そして、最後のご報告にありましたが、自殺もそうですね。日本の場合は男性がハイリスクということになると、そういう方（女性）たちの旦那さんがハイリスクということですので、色んな立場で女性ができることが沢山あると思います。」

「今のことをですね、皆さんに非常に身近なこととして知っていただくために、『陰陽』易教ですか、それを例にしてお伝えさせていただきたいと思うんですが、陰と陽というものがありますね。陰（かげ）とお日様があるように、中国でも、これはよく使われる考え方なんですけれども、陰があるから陽がるというんです。陰というのは女性、陽っていうのは男性ですね。陰というのは「地」、陽というのは「天」。このようにふたつの全然相反するものに、よく表現されます。」
「このふたつがあるからこそ、成り立つものなんですね。陽がるだけではだめで、陰があるだけでも成り立たない、両方があるからこそはじめて成り立つという考え方をします。」
「陰と陽に例え、男性と女性と申し上げましたが、基本的に男性と女性は違う側面がいっぱいあると思うんですね。私どもがよく言うのは、女性は細かいことに詳しい、男性は大きい視点で見るというふうに私たちは良くいうんですが、片方だけでは十分じゃないと思うんですね。ですので、男性と女性の両方の視点から、これから調査にしろ、何かにしろ見てゆくことで、箕輪町の取り組みが包括的なものになるのではないかなと思います。」
「男性と女性は、国によって様々なんですが、いろんな役割が違う部分もあると思うんですね。で、違うということを活用してゆく。女性ならではの、男性ならではの役割は、社会において違うと思うんですが、日本の中でも、そういうこともあろうかと思います。その違いというものを上手く活用して取り組みを、より包括的なものにしてゆくのではないかな、と、皆様方がそうおっしゃっておりましたことに期待しております。」
「ですので、例えば色んな環境の中で、男性と女性でできることでも、感性が違ったり、アプローチが違ったりするかと思うんですね。お家であったり、仕事であったり、職場であったり、公共の場であったり、男性であること、女性であること、（その）違いを活用していただけることを期待しております。」
「中国では、こういう諺があります。『例えば一緒に仕事をしていて、男性も女性も両方が居たら力を発揮して疲れることはない、それなりのことをする。』ことがあります。」
「今気が付きましたが、ここに座っている皆さんは全員男性なんですね。ここは私ひとり、男性しか居ないんですね。今、ちょうど気が付きました、後ろには、おひとり（の女性）しかいないんですね。」
「昨日ですか、ちょうどひとり町会議員の方の女性とお話しする機会がありましたが、聞くところによると、彼女が唯一女性の議員さんだと言っていました。どうぞ、これからですね、この取り組みに女性が、女性ならではの良さが取り入れられることを期待しています。」
「どうぞ、男性のみなさん、女性はおバカさんではありませんので、　色々役立つこともありますから、どうぞ女性を、もっと巻き込んでいただきたいと思います。どうもありがとう。」

（ということで、王先生の最後の言葉でした。）＝白石氏

●デール・ハンソン先生（白石氏 / 通訳）
（私も男ですね。（笑）＜デールハンソン先生＞）

「男性が多いわけですから、参考にしたいですね。（笑）」<デール・ハンソン先生>

「王書梅先生は女ですから賢いですけれど、私は男性ですから、おバカさんです。」<デール・ハンソン先生>（という冗談を言っておられます。）＝白石氏

「私の方からですね、ひとつアドバイスさせていただきたいなぁ、というのは、根拠に関することであります。ふたつの考え方があると思うんですね、根拠に基づいた取り組みをするというのは。ひとつは皆さんが既に十分実践されております、普遍化するということですね。こういうような問題が見えてきたから、これに対してこのような取り組みをしなきゃいけない、というところで、箕輪町は十分実践されていると思います。もうひとつがですね、どのようにデータを使うかという、もうひとつの方法なんですが、例えば事例で言うと、救急搬送されている人のデータがあります。でも、実際にケガをした人の平均は調査で聞いておられますか？　と聞いたら調査では聞いておられない、というふうに言っておられました。そういうような（調査の）機会を使ってですね、例えば過去１２年間に、あなたやあなたの家族がケガをした経験はありますか？　と聞くことによって、救急搬送されなかったけれどもケガをした人の、ある姿、現状というものがですね、そういうようなものが見えてくる、と、より包括的に、どういう状況が箕輪町であるのか？　というのが見えてくると思います。」「そういうデータが出てくるとですね。例えばその初期医療をする人たちを請け負っているのが分かれば　全体を推し量ることができると思うんですね。ケガした人が全員、救急車で運ばれるわけではないですから、その方たちが、どうしたかということ、どういうふうに医療（機関）にかかりましたか？　ということを、『救急搬送されました』『自分の家に居ました』というのを見ていけば、そこで割り引いていけば、救急搬送された人はこれだけ、自分で（医療機関）に行く人はこれだけ、という割合を見ていけば、全部の調査をしなくても、箕輪町で、だいたいこれだけのケガした人がいて、だいたい何割くらいが、お家の中に居て、そのうちの何パーセントが自分で（医療機関）へ行っていると考えると、救急搬送のデータはあるし、病院に行った受診データもあるので、だいたいどういうふうなかたちで、どんなケガ（人）がどういうふうに、病院にかかっているかが分かる。全体像が分かる。ケガのピラミッドが見えてくるんですね。そうすると、どこか、また違う側面、課題も見えてくるんじゃないかと思います。」

「実際、箕輪町さんは調査された。アンケート調査はされているのですから、そこに質問をこういっていただいてですね、例えばその中で全体像が見えてくると、例えばケガをした３００人のうちのひとりが救急搬送されているということであれば、救急搬送の人が増えると、氷山の一角が見えて、この下の氷山がどれだけあるかが見えてきますよね。そういういうふうなかたちで（データを）使っていただく。そういういうデータの根拠を作っていただきたいな、というふうに思います。」

「それに合わせてですね、どれだけの影響、ケガの重症度というのも合わせてみることができるかと思うんですね。例えば『あなたは何日以上、仕事を休まなければいけませんでしたか？　』とか、『日常生活を送るのに支障がありましたか？』とか、の形の聞き方でいいと思うんですけれども、どれだけ生活に影響を及ぼしたか？　ということで、ケガの重症度をみることで、より深みのあるデータになるんじゃないかな？　と思います。そうすると、それに対する、どれを優先順位にしていかな

いといけないか？　どういう側面に重点を置かないといけないか、光を当てていかなければいけないか？ということも、また見えてくると思いますので、そういうことも、ご検討いただければいいのかな、と思います。」

「そのケガをした方がいらっしゃったら、例えばですね、こういう５Ｗ１Ｈで聞いてみるといいのかな。誰がケガをしましたか？　何処でケガをしましたか？　いつケガをしましたか？　どうやってケガをしましたか？　なぜケガをしましたか？　というような形で５Ｗ１Ｈで聞いていただくと、その傾向というか、着目すべき点が浮き出てくるんではないかな？　と思いました。」

「なぜ、このようなことを言うかというと、皆様が非常にしっかりと調査の大切さ、必要性を理解しておられる。そういう実践をされているので、せっかくですので、この機会を、調査をしたことをですね、より有意義なものにするめにと、そう思いましたので、こう、コメントさせていただきました。」

「もうひとつ、セーフコミュニティ・コンテンツに基づいたことについてコメントさせていただきました。私ども欧米の諺にですね『私たちは毎回毎回、車の車輪を開発さる必要はない、発明する必要はない』　という意味なんですけれども…どういう意味かといいますと、私たちのやっている取り組みは、もしかしたら前に、他の人がやっていたりすると参考になることが沢山あると思うんです、すでに成果が確認されているものとかが沢山あると思うんですね。」
「そこのところ、箕輪町も、どのように　というか、徹底というか、他のところで出ている成果の確認できるものも活用しているか？　っていうところを、そんなに長くある必要はないというか、半ページぐらいの追加でいいと思うんですが、そこを（レポートで）見せていただきたいな、と思います。」
「例えば、他のところでやっていて非常に成果があったので、箕輪町でも取り入れました、みたいな、それをさらに良いものにしました、みたいな、そういうところの情報を付け加えていただくと、いいかなあと思います。世に中には既に、成果が科学的にも認められているもの、あるいは、実際の取り組みの中で実証されているものもありますので、そういうところを追加しておいていただけると、ただそれを偶然やったのではないよ、というところを示していただくと、非常に厚みのある良い記述になると思います。」

「その事例がひとつ、ここにある KYT ですね。お話しの中にもありましたけれども、まずセーフコミュニティで、他の自治体でやっていて、非常に成果があったということを聞いて、そこから学ばれて、箕輪町でも箕輪町バージョンを開発されたと聞いています。これひとつの、良い事例に学んだ根拠ですよね。」

「本当に数段落でいいと思うんです、例えばそういう事例をですね、書いていただけると、心強いと思いました。」

「決して長い文章にしないで下さい。」「是非、それをいただければと思います。」

「そして、ふたつめですね、これは、もうひとつの見方だと思います。お伺いすると、数年前になるんですが、大学の研究者の先生の分析の元で、成果や効果を生むようなプログラムを開発されたというふうに、研究者の方が箕輪の子どもたちがケガのない　でいるようにと、いうことで、箕輪 KYT（？）を開発されたと聞いております。これは、根拠に基づいた取り組みのひとつの事例だと思います。」

「みなさん、是非この事例についても、コメントしていただけたらと思います。なお、半ページくらいで結構です。」
「そして、皆さんのですね、直近のご報告になりましたので、　　のところと、私が述べさせていただきました、ゲートキーパーの取り組みですね、そこで聞かさせていただいたいのですけれども、どうしてゲートキーパーをやらないといけないのか？　ってことと、どうしてそのコンテンツ、内容をやっているのか？　というこよをですね、まずご説明いただきたい、おそらく根拠がなされていると思うので、その事例をご紹介いただけるといいかな、と思います。」
「えーこれは、私が、皆様方ができてないから、しなさいと言っているわけではないんですね。これは確認できているんです。皆様方の報告の中に。ただそれが、私たちは報告の中（だけ）で聞いているので、後々に力タチとして残っていかないのは、もったいないなぁ、と思ったんですね。ですので、是非それを書いて送っていただければ、私どもの申請書、推薦状（申請書）の補足資料として添付したいなぁと思いますので、テキスト化、書面化していただきたいな、と思います。」

「もうひとつ追加ということなので、申し訳ないのですがコメントさせていただきたいんですが、認証センターの方からですね審査員に対してリクエストがあるんですね。私ども審査を行ったときに、他の自治体、世界にも紹介したい事例があったらですね、是非、それをレポートしてくれというふうに要望がきております。革新的であったり、他の自治体に広まって欲しいと思うような取り組み、参考になるような取り組みがあれば、ということで、私は今日の富田地区の報告が非常に素晴らしいと思いましたので、富田地区のことについてご紹介したい、これをグッドイグザンプル、好事例ということで、紹介したいと思っております。」
「私どもが富田地区にお伺いしたときに、突出して素晴らしいと思いましたし、日本の、この取り組みはですね、是非、他の国にも参考にしていただきたいと、いうふうに思いました。　革新的だと思いましたので、そのようにコメントさせていただきます。」

「私どもがスウェーデンの本部にですね、要請。是非、そういうふうに紹介してくれと言われておりますので、私どもの方で紹介しますので、それをまた、本部のウェブサイト、ホームページに良い事例として掲載したいと思っています。」

「今、私が聞いたのは、白石（通訳）も、皆様方もおそらく思っていると思うんですが、『えっ、それって書くのは私たちなのかな？』と思っている人もいると思うんですが、私が、今、それを聞いたらですね、『箕輪町さん、書いて下さい』って、おっしゃっていたので、だいたい２、３ページで良いと思うんです。」
通訳：白石談　「皆様が書いたのを私が読んで、それをまたコメントするというのをですね、日本語で書いたものを私のセンター（に向け）英語に訳してですね、その英語で来たのを、私が（白石）が

日本語に訳して、というと、かなりの、皆んなにちょっとづつ作業を強いますので、私どもセンターの方で、事例を書かせていただいて、見ていただいて、それを最後、箕輪の皆様方に、これで間違ってませんか、というふうに書いた方が早くないですか？　といったらグッドアイデアとおっしゃったので、私どもの方で、センターの方で、皆様の代わりにですね、書かせていただいて、それで、両方の確認のために箕輪町の皆さんと、審査員の先生方に確認していただく、ということで、え一つ、今、決めて大丈夫でしょうか？」

「マキマキ（早く早く）というふうに今井さんがしましたけれど、これでだけはどうしても言っておかないといけないので、ご了承下さいということで、なぜなら次のステップのことについて、お話ししないといけないからですね。これから私どもは何をするかというと、審査員としてレポートをこれから提出します。スウェーデンの本部にします。その内容はですね箕輪町の取り組みは審査を通して、しっかりと取り組みを進められているので、非常に素晴らしい取り組みをしているということで、再認証を強くお勧めしたい、と思っております、というお手紙、レポートを書きます。」

「それを元にですね、それを受けて皆様方は、間もなく認定内定のご連絡が行くかと思います。」
「その内定が届いたら様式のＢということで、どういうことかというとホームページ上に箕輪町の取り組みを紹介するものです。それについては、また支援センターの方でお手伝いさせていただくと思うんですが、様式Ｂについて、まずは取り組んで下さい。」
「それが終わったら、皆様方はパーティについて考えていただかなければいけないというふうに思っております。」
「再認証パーティをですね。、考えて下さい。」
「お伺いするのは来年の５月の終わりころですかね、それくらいを希望されているというふうに聞いております。」
「その認証式にですね、是非、私も皆さんと一緒に箕輪町の更なる安全向上のために頑張ります、という合意書にサインをしたい、というふうに思っております。」
「合意書っていうのは、ただ単に箕輪町が再認証されましたよ、という合意書ではないのです、これは逆に箕輪町の皆様方にとってもですね、箕輪町も引き続き安全の町づくりについて取り組みますよ、という決意書のようなものでございます。」
「もちろん、批准書ですので、今までの取り組みが素晴らしかったですよ、という確たる取り組みに対する認証ですけれども、それと同時に次のステップに対してですね、新たなる、お約束の場だと思っていただけたらと、思っております。」
「将来、常に先のことについて考えていただいて、箕輪町がより安全な町になるための決意としていただければ、と思います。」
「その合意書にはですね、決して合意したのは私と町長だけではない。合意していただくのは箕輪町は皆んなで安全な町にしていただくのですから、公式にコミット（協定）していただける方のお名前が上がることを、非常に楽しみにしております。地域の色んな方々が関わっていただいていると思うので、そういう方たちも、一緒にここでお約束していただけると、非常に嬉しく思います。」
「そのときにですね、そのお祝いに、どうぞ、箕輪町にご貢献下さいました皆様方で、喜びを分かち合う場にしていただきたいと思います。」
「セーフコミニュティの取り組みというのは、非常に息の長い取り組みだと、町を安全にするための

努力というのは、継続することが大切ですが、頭で分かっていても、私たちどうしても、元気に頑張っていても、疲れることがありますし、飽きてくることもありますし、ちょっと力を抜きたいときもあると思うんですね。」
「ですので、認証式っていうのは、ただ単に『おめでとう』って言う場じゃなくて、そういう人たちを元気づける、力づける、また頑張ろうっていう気持ちにしていただける機会として活用していただきたいと思います。」
「例えばですね、箕輪の町にですね、遠いオーストラリアとか、遠い中国から、『すごいね、この取り組みスゴんだよね』って言ってるっていうだけでも、地域の方にとっては、自分たちがやってきたことを認められたんだな、と思っていただけるんじゃないかな、というふうに思います。」
「実際、このお祝いの場ではですね、限られた方が合意書にサインをする、署名していただくことになるのかもしれませんが、実際にその陰に後ろにいらっしゃる、日々の活動をされている方たちですね。例えばスーパーの前でチラシを配ったりとかですね、データを収集したりですとか、歩いている人に声をかけたりですとか、そういう方たちこそが、今日の箕輪町の取り組みを支えてきたんだ、ということを感じられるような場にしていただきたい、というふうに思っております。」

「その認証式には本当に地域の方々が、皆んなニコニコしておられる、そのようなことを期待しております。」
「皆様方に敬意を表して、お礼の謝辞にしたいと思います。」
「皆様方の、取り組みを見せていただき、本当に敬意を表したい、と思います。世界的に見ても、引けを取らない、本当に世界に誇る取り組みをしてるんだという自覚を持ってですね、（５月２７日だというふうに私は、希望していると聞いております。）その日が町をあげてお祝いになることを楽しみにしております。」
「そのために、５月２７日、空けて待っておりますので、皆様とお祝いできることを楽しみにしております。」
「皆様、この度は、本当に素晴らしい取り組み、おめでとうございます！」

●白鳥・箕輪町長のご挨拶
「２日間に渡りまして、デール・ハンソン先生、また、王書梅先生には、現地調査をしていただきまして、お礼申し上げます。感謝申し上げます。有り難うございました。」
「先ほど、講評の中で再認証につきまして、それに値すると、また、５月のスケジュールまで言及をしていただきましたので、ご評価をしていただいた、というふうに考えております。」
「このことにつきましては、５年間、町民の皆様の日常活動といいますか、セーフコミニュティの活動に対する、評価をいただいたというふうに考えております。」
「確かに認証をいただくということは重要なことではありますけれども、先ほど地域力という言葉が出てまいりましたけれども、そういったものの積み重ねといいますか、プロセスといいますか、それが大事だということを、あらためて感じました。」
「私自身もあらためて感じたわけですし、今日は後ろの傍聴席といいますか、そちらに富田区の皆様がいらっしゃいますので、圧力を感じているわけではありませんが、地域の活動がなければ、セーフコミニュティの活動にはならないということを、あらためて感じさせていただきました。」

「町として行政として、全体的な方針を示したり、いわばこう網を被せていくということは、簡単ですが、それをそれぞれの地域や学会や企業や、そういったものの皆さんがどうやって取り組んでいただけるかが、大事だっていうことが（分かりました。）」今回の皆様の現地調査の中でも、教えていただいたというふうに思っております。」
「先ほどデール・ハンソン先生から美しい織物にしろ、というお話をいただきました。そのためには、王先生から女性をいかに取り込んでゆくか、活用してゆくか、参画してもらうか、ということが非常に重要だというお話もいただきました。」
「もう一点、私たち気を付けていたつもりでありますが、データをいかに取ってゆくか、またそれを、どうやって使ってゆくか、そういったことについてのご指摘もいただきました。行政の立場から色んな形で、私たちも学ぶことができました。今回の審査、本当にセーフコミニュティを進めてゆくに当たって、ひとつのキーポイントといいますか、節目になったというふうに思っております。」
「５月２７日というお話しをいただきましたので、私たちも、そういった形で、準備を進めてまいりますし、富田区につきましては、是非、世界への発信を皆さんの力でしていただければ、私たち箕輪町としても、大変、嬉しく思います。先生方から、ここでやってきたことを自信を持ってやれ、と、大変有り難い言葉を何回か、いただきました。そんなつもりで、町は勿論ですけれども、町民の皆さんが一緒になって、セーフコミニュティの活動を、してまいりたいと思いますので、引き続きのご支援もお願いして、感謝の、お礼の挨拶にさせていただきます。どうも、有り難うございました。」

以上。